

岐阜信用金庫 創立100周年

提案型の営業に注力 環境変化にも対応



＝岐阜市神田町、岐阜信用金庫本部



岐阜信用金庫100年の歩み

1924年	3月	有限責任岐阜信用組合が誕生
	4月	有限責任岐阜信用購買組合が誕生
1940年	9月	2金融機関が合併し、有限責任岐阜信用組合が発足
1951年	10月	信用金庫法公布に基づき岐阜信用金庫に改組
1953年	4月	信金界初の越県進出。愛知県に木曽川支店を開設
	12月	岐阜市の旧若宮町支店が本店として新築落成
1969年	12月	預金量1000億円達成
1971年	6月	恵那信用金庫と合併
1979年	4月	岐阜市神田町に本部ビル竣工
1985年	12月	預金量1兆円達成
1991年	11月	ムーミンをイメージキャラクターとして採用
1997年	12月	預金量2兆円達成
2002年	3月	中津川信用組合の事業譲渡完了
2015年	12月	タイのバンコクに駐在員事務所を開設
2023年	9月	新たなブランドイメージ「G's Dream」導入
	12月	ぎふしんオリジナルマスコット誕生
2024年	3月	創立100周年
2025年	2月	新たな拠点「G's Dream」が完成、4月開業予定



岐阜信用金庫

〒500-0562
岐阜市神田町
6丁目11番地
電話 058(265)1151

〈設立〉
1924年3月

〈出資金〉
204億円

〈預金〉
2兆6356億円

〈貸出金〉
1兆4501億円

〈常勤役員数〉
1432人

〈店舗数〉
89店舗
(岐阜県内59店舗、愛知県内29店舗)

(2023年9月現在)

草野 クロバ化が進む中で身近に相談できる存在があることは大変頼もしい。長い歴史の中で培った経験やノウハウが活かされていますね。とらえて、2023年度から力年の中期経営計画をスタートさせています。計画の骨子や基本戦略をお聞かせください。

好岡 持続可能なビジネスモデルの確立に向けて、これまでの100年を振り返り、100年を過ぎる事業、挑戦するべきことと位置づけた計画になっています。取り組みの柱は三つ。一つ目は高付加価値事業の挑戦です。具体的には、一人の営業担当者がさまざまな事業から生活に関わる全ての課題に対応するスタイルを、事業者向けと個人向けの専門性が発揮できる体制にしています。事業価値向上に向けたリノベーション営業、ライフステージに応じたお客さま本位の営業に挑戦していきます。

草野 これまでの営業は地域の人たちに頼られ、愛され、きたスタイルだと思います。そこを否定するのはなく、いい形を継承しつつ、力提案に注力していくというのは結構な課題ではないかと思えます。難しいけれど、良さを生かすことで克服をしよう。

好岡 二つ目は経営の効率化とパフォーマンスの強化です。三つ目はステークホルダーとの関係性構築と、GX(デジタルトランスフォーメーション)、DX(デジタルトランスフォーメーション)、HGX(人財トランスフォーメーション)を推進し、地域社会の共存共栄を目指します。

草野 環境問題が世界規模で重要な課題となっていますが、岐阜信は環境分野に力を入れ、経営を回していると思います。金融機関のサステナビリティの活動は、どういったメニューになっているのでしょうか。

好岡 分がけやすのが脱炭素の取り組み。当金庫は2050年までに13年比二酸化炭素(CO₂)排出量を50%削減する目標を掲げています。

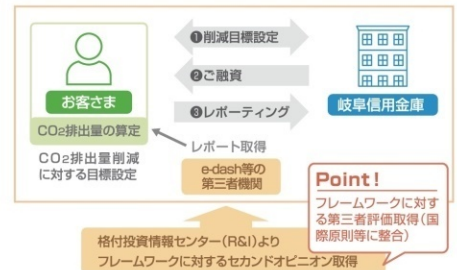
草野 二つの商品を取り扱いは開始しました。その一つが、企業活動が環境や社会、経済に与える影響を分析、評価して融資を行う「ポジティブ・インパクト・ファイナンス(PID+)」です。もう一つが脱炭素に特化した目標値を定め、達成度合いに応じて金利が変動する「サステナビリティ・リンク・ローン(SLL)」の取り扱いです。いずれも国の信用金庫で初めての取り組みです。

草野 二つの商品は、こういう活動をきっかけとして、好岡と草野が経営のリーダーと直結しています。特に海はそう。二つの経営で本質に変わりました。SDGs(持続可能な開発目標)関連の課題はたくさんありますが、大企業に比べて、中小企業は投資がなかなかできない苦しみを感じています。感銘と共感の部分が、すごく有効な商品だと思います。

好岡 やらないといけないと思いつながら、どうすればいいのかわからないという企業はたくさんあります。さらに多くの企業にとって、SDGs関連の課題に積極的な取り組みでいてほしいと思っています。

草野 中期経営計画のスタートから1年がたち、手応えを感じていることが伝わってきました。創立から100年が一つの節目となります。次の節目のためには、先の100年を見習えなければいけないと思います。と

ぎふしん サステナビリティ・リンク・ローン(SLL)



道三まつりで職員が担いだみこしの前で好岡政安理事長と草野高代さん

うありがたい、と理事長は考えています。100年は二つ終わるのではなく、通過点のようなもの。過去の歴史を知れば知るほど、地域の皆さまの支援や諸先輩の尽力のおかげで当金庫の今があるのだと改めて痛感しています。私の役目は、これまで築き上げてきたものを大切にしながら新しい風を吹かせること。ノウハウを自ら見えないものも含めて、バージョンアップが必要です。お客さまに対して、当金庫の職員に少しでも並行して行っていく。次の100年に向けて、この100年の100倍の進歩で発展していく。私を含めた役員全員が成長しなければなりません。

草野 信用金庫だからこその強みは明確にあって、それをうまく生かすことが重要だと思います。その辺りを改めて聞かせたい。

好岡 どちらかというと、手先よりも体全体を使って仕事をすることが信用金庫。先ほども同じことを言っていますが、そこを生かす道があると思います。今までと同じやり方は、進歩がない。何もしなければ、外的要因が強いので差が出てしまう。時代の変化に合わせて、新しい、いろいろな発想を取り入れて、柔軟性をもちたい。

草野 すこいですが、人間ささいな感じがしたいと思っています。最後に聞きたいと思いますが、岐阜信用金庫は、先づいてどういった存在でしょうか。

好岡 伴走者でありたい。上をない、下をない。ともに走っている家族同然の信頼関係を築きながら成長していく。そういう関係でありたい。